

# 女性が やりたいことをあきらめず、 才能をのびやかに 発揮できる社会を作りたい

それをいつも後押しできる自分でありたい



福岡県男女共同  
参画センター館長  
株式会社  
アヴァンティ顧問  
**村山 由香里氏**  
略歴 福岡県福岡市生まれ、福岡市在住。九州大学を卒業後、化粧品メーカー、情報誌の  
営業・編集を経て、平成5年に有限会社ファアップ(現・株式会社アヴァンティ)を設立  
し、情報誌「アヴァンティ」を創刊。平成22年3月に社長を退任して顧問に。同年4月より福岡県男女  
共同参画センター「あすばる」館長。平成14年全国商工会議所女性会連合会「女性起業家大賞」奨励  
賞、平成16年「福岡県男女共同参画企業賞」受賞。

**株式会社アヴァンティ**  
平成5年、村山氏が設立。設立時から情報誌「アヴァンティ」を毎月発行している。現在はさらにコミュニティサイトの運営、イベントの企画・運営、マーケティングやプロモーションなども手がける。創業の理念は、「女性がいきいきと自分の可能性を発揮して活躍できる社会へ、社会変革の原動力になる」。現在の社長は2代目で、創業2年目からのメンバーである清澄由美子氏(中央写真左)。



**年表**  
**22歳** 大学卒業と同時に化粧品会社へ勤務。3年後に退職  
**29歳** 市役所の臨時職員を経て、地元情報誌2誌で営業と編集を8年経験  
**34歳** 自宅マンションで有限会社ファアップ(現・株式会社アヴァンティ)起業。「アヴァンティ」創刊  
**49歳** 平成20年度(第5回)女性のチャレンジ賞受賞  
**50歳** アヴァンティの社長、編集長とも退き顧問  
福岡県男女共同参画センター「あすばる」館長に就任



”おかしいことを  
”おかしい”という

22歳で就職するとき「おかしい」と思いました。男女雇用機会均等法ができる前でしたから、採用は男子のみという会社が大半。同じ大学を卒業したのに男子と女子はなぜこんなに違うのか。当時珍しい男女同一賃金の化粧品メーカーに入社しました。「おかしい」と思うことははつきり言うタイプでした。仕事はおもしろかったのですが、自分の将来が見えずもつと能力が発揮できる仕事をしたいと先も決めずに3年で退職しました。でももつとおかしい、と思ったのは市役所の臨時職員になった時。正規職員はほとんど男性ばかり。臨時職員は若い女性ばかり。その女性たちが全職員に一日4回お茶くみするシステムなんです。女性は本当に能力がないのだろうか、そんなはずはないと、愕然とする思いでした。その時、たまたま目の前にあった情報誌を手に取り、編集局に電話をして「アルバイトはありますか？」と聞いていました。

そこは働く女性向けのミニコミ誌を作っていて取材も営業も配達も全部自分でやりました。色々な職場を回って自分と同じように働く大勢の女性に出会えば本当に楽しかった。仕事も夢中でしたし、何より仕事で出会った女性同士でネットワークができ、旅行もしたし悩みも相談しあつてお互いに刺激になりました。ふとしたきっかけで女性が仕事ができるようになって、どんどんきれいになっていく。大事なのは一歩踏み出すちよつとした勇気なんだなって

## 50歳で行政の世界へ。 17年間育てた会社を退く決断

49歳で内閣府の「女性のチャレンジ賞」を受賞し人生が思わぬ方向へ変わることになりました。授賞式では当時の福田康夫総理の話で国は目標をもって男女共同参画を進めていることを初めて知つたし、日産自動車のゴーンCEOの基調講演を聞いてトップダウンで女性活躍を進めていらつしやる様子に驚き、頼もしく思いました。福岡に戻つたある日、一本の電話があり福岡県男女共同参画センター「あすばる」館長への就任を打診されました。迷いました。民間企業の役員を退くことが条件だったからです。でも、これまで働く女性を元気に、女性が活躍する社会に変えたいと活動してきたけれど、女性の意識は変わつてきた、男性や経営者の意識、行政や政治の問題も大きいと思つており、福岡県全体に行政の立場からアプローチできるのは魅力的でした。副社長として私をずっと支えてくれてきた清澄さんが社長就任を決意してくれ、また私の背中を押してくれたことで、私も決意しました。

館長になって最初に方針を2つ立てました。1つは働きかける対象者を広めることです。女性団体だけでなく、働く女性、企業、経営者、子育て中の女性、大学生など。2つ目は情報発信の拡大です。デザインを一新しリアルな情報を更新し、ネット上で講座の申し込みをはじめたら飛躍的にページビューが伸びました。また、女性起業家支援セミナーやフォーラムなどで、経

この時たくさんの実例をみて思いまし  
た。

女性が  
活躍できる社会づくりを、  
後押しする会社を作りたい

地域情報誌は地元の人と人をつなぎ、勇気や元気を感ぜてもらえるのではないかと。そう思って34歳のとき、自宅マンションの一室で起業し、「アヴァンティ」の創刊号を出しました。未経験者6人での創刊でしたが、2年目頃から、かつて一緒に働いた女性たちが集まってきた。今の社長の清澄さんは最初の化粧品会社の同期です。小さいお子さん2人の育児をしながら「あなたの夢を私も一緒に追うわ」と言ってくれ本当に嬉しかった。前の雑誌で一緒だった仲間たちもあちこちから集まり入社してくれ大きな力になりました。新卒採用をはじめ20年近くになりますが、育児休業しても必ず皆戻ってきてくれる。皆でサポートしあつてがんばれるとてもいい職場になりました。

アバンティが創刊以来変わらないのは、ただ情報を発信するだけでなく、情報を受け止めてくれた人同士をつなぐ役目を果たしたいということ。人は集えば刺激を受けるしお互いに力になれる。そして会社としては、女性がやりたいことをあきらめずに活躍できる会社を作りたい、それを後押しできる会社でありたいと思つてやっています。読者や若手編集者にもどんどん企画を任せます。それを通じて皆が成長する、そういうことをずっと続けて来ました。

済団体と連携を深めてきました。平成24年には、「女性活躍フォーラム」を開催しましたが、経済界と九州経済産業局、男女共同参画の関係機関が連携したかつてないイベントとして500名の会場が熱気にあふれ、経営者や管理職、女性たちが話に聞き入りました。また講座と課題研究を組み合わせた「ふくおか女性いきいき塾」を開講し、若い世代のリーダー候補を育成しています。今、福岡では経営者団体や知事・市長、大学、民間企業など産官学民が連携し「女性の活躍推進福岡県会議」の取組が始まっていますが、この取組でも役目をしっかりと果たして九州から大きなうねりを作り出せたらと思っています。

50歳になって行政機関の長への転身、という大きな変化がありました。個人的に良かったことが2つあります。1つ目は自分自身が何者であるか、強みが何か確認できたことです。私はやはり起業家であり、経営者の経験が自分を作ってきたとわかりました。2つ目は私が退任したことでアヴァンティのメンバーそれぞれが目覚ましく成長したこと。副社長が社長に、副編集長が編集長に。そして皆が1つずつステップを上げ、私がいたとき以上の業績をあげています。理念を受けつぎ発展させてくれる。本当に嬉しいことです。

今の館長の仕事には任期がありますので、また私の人生は新たな展開をするはず。それがまた、楽しみでもあります。女性が活躍する社会に変えたという思いは変わりませんが。

(文・高村静)